

# 海外小説の楽しさを届けたい



現在は、秋に出版予定の長編サスペンス小説を翻訳中



山中さんの代表的な翻訳本（早川書房刊）



## 話題作を手掛ける

今年4月、イギリス映画「ハンターキラー 潜航せよ」が全国公開された。原作本を翻訳したのは、市内在住の翻訳家・山中朝晶さんだ。英米の冒険小説を中心に、これまで多くの作品を手掛けてきた。

## 翻訳家を志す

小学1年から北広島に住んでいる。札幌の高校に通い、東京外国語大学へ進学した。大学時代は海外の冒険小説を好み、気に入った作品は原書で読んでいた。

大学卒業後に札幌で就職。3年後、職場の近くに翻訳学校が開校したと聞き、興味があった翻訳を学ぼうと仕事の傍ら通った。

「何か冒険をするなら30歳までに」と以前から考えていた山中さん。平成12年、翻訳家を志し30歳で退職した。

始めたばかりの頃は、短編小説

## 翻訳家

### 山中 朝晶さん

やまなか・ともあき  
北進町在住。  
東京外国語大学イタリア語学科卒業後、札幌商工会議所に勤務。仕事の傍ら翻訳学校で学び、30歳を機に翻訳家の道へ進む。  
平成26年刊行の「ピルグリム」は、小説のランキング「このミステリーがすごい! 2015年版」(宝島社刊)で、海外編4位に選ばれた。

の依頼が時々舞い込むくらいで、なかなか大きな仕事は入らなかった。ほかにも原書を大まかに翻訳して内容を調べる仕事や、他の翻訳家の手伝いなどをした。実績を重ねるうちに長編を任されるようになる。編集者から紹介され、大手出版社の早川書房(東京)から依頼されるまでになった。

## 妻と二人三脚で

平成19年に結婚。翻訳学校で知り合った妻も、中村美穂というペンネームで女性向け恋愛小説の翻訳をしている。山中さんの仕事が少なかつた頃は、妻に支えてもらっていた。「妻の仕事が忙しい時は、炊事や洗濯、掃除をしっかりとやりました。おかげで料理の腕が上がったんです」と笑う。現在も夫婦の一方が忙しい時は、もう一方が家事をする。互いの原稿を読んで確認し合うことも多い。「妻が目を通してくれるからこそ、安心して

原稿を編集者に渡せます。いつも心強い味方でいてくれて、感謝しています」。

## 小説の楽しさを届けたい

翻訳する時は、読みやすい日本語になっているか気を配っているそう。軍事や医療などの難しいことは調べたり、専門家に問い合わせたりする。真面目な仕事ぶりが認められ、アメリカで出版されたベストセラー「ハンターキラー 潜航せよ」の翻訳を任された。映画化が決定した作品とあって意欲的に取り組んだ。

「海外小説は名前や地名が覚えにくいという方もいると思いますが、外国の雰囲気を感じながら物語の展開を追うのは楽しいです。原作の良さを損なわないよう心掛け、愛読者が増えるような仕事をしたいです」と話す。

これからも魅力あふれる海外小説を翻訳し、読者に届けてほしい。

